



## 新水門川排水機場・安田操作人に局長表彰

『洪水被害軽減に感謝！』

細野揖斐川第二出張所長から感謝状を受け取る安田さん＝ 新水門川排水機場内

- 国土交通省木曾川上流河川事務所は12月26日（金）、河川管理施設従事者表彰の伝達式を行った。排水機場などの操作人は、国土交通省から操作委託された市町村が、近隣に住む方に委嘱しているが、今回の表彰は、大垣市内を流れる水門川下流域に位置する新水門川排水機場（大垣市横曽根地先）で、20年間にわたり、洪水被害の軽減のため排水機場などを操作してきた、安田時好さん（75）に対して中部地方整備局長から感謝状が贈られたもの。

伝達式に参加した、木曾川上流河川事務所の細野貴司・揖斐川第二出張所長は「揖斐川の増水時は、水門川の水が流れにくく、大垣市内が内水被害を受ける影響がある。この施設は大垣市民の生命線であり、財産を守る重要な施設である。安田さんは長きにわたり、適切に管理し・操作していただき、本当に有り難かった」と挨拶し、感謝の気持ちを込めて感謝状を伝達した。

操作人は洪水時、昼夜を問わず豪雨の中をいち早く施設に駆けつけ、洪水被害軽減に当たる。安田さんは「この排水機場は操作時間も長く、操作回数も多いので大変だった。長い時は、1回の豪雨で30～40時間の連続勤務となる時もあった。昔は洪水が終わった後、皆でメシを食ったり、酒を呑んだりして全体に連帯感があり楽しかった。サンフラワーと言う大型フェリーに乗り、四国へ旅行へ行っただのが一番の思い出」と昔を懐かしんだ。



建屋内のポンプ機械設備



木曾川上流河川事務所  
管理課長 林 正順

操作員  
安田 時好

大垣市管理課  
主幹 種田 昌克

管理人  
奥田 正信

揖斐川第二出張所長  
細野 貴司

伝達式を終えた後、安田さんに、これまでの思い出や今の心境などを語っていただきました。

## ① 従事期間は20年？ それとも40年・・・

林：「今回、操作人として20年間従事されたことで表彰をさせていただきました。本当に長い間、ご苦労様でした。」

安田：「実は、約45年ほど前に消防団の浅草分団長に就き、その時、操作人をいったん辞めた時があった。分団長に就く以前にも、この排水機場で操作人をやっていたんです」

奥田：「私が知っている情報では、トータル40年近く従事されたと聞いているよ」

安田：「そのくらいになるかも知れない。今現在、僕より任期が長いのは、杉本君と松井君ぐらいかな？」

奥田：「松井さんによると、昭和47年に松井さんが入ってきた時に、既に安田さんは操作人として活躍されていたというから、浅草分団長の任務期間を考慮しても、40年ぐらいになると思うよ」

林：「消防団も防災の一部ですよ！（笑）」

安田：「消防団（水防）をやっていると、操作人との兼務は難しい。出勤時期が同じタイミングになるからね。どうしても操作人を辞めるしかなかった。消防団の分団長を一定期間、務めた後、再び、操作人の依頼の話があったから復活したんだ（笑）」



安田さん（左から2人目）と操作人の仲間たち  
平成26年撮影

## ② 操作人を引き受けることになったきっかけは？

種田：「元々、排水機場の操作人の仕事を引き受けることになった、きっかけは何だったんですか？」

安田：「40年以上も前の話だから、あまり覚えていないなあ。ただ1つは、当時、給与も現金支給だったので、支給されても、その日に呑んで使い切ってしまったくらい（笑）。最初は、ボランティアの気持ちで引き受けたと思います」

林：「誰かに声を掛けられ誘われたんですか？」

安田：「誰かに誘われた記憶はないね。当時は、仕事が終わった後は、皆でメシを食ったり、呑んだりしてその場の雰囲気と自然と操作人をやることになった気がする。時代の流れからか、段々とそういう事が無くなり、昔に比べると、横の連携も少なく、人情的に水くさい関係になってきたことはとても残念ではない・・・（悲）」

種田：「昔は、操作人の人たちで、集って慰安旅行に行かれたと聞いたことがありますよ！」

安田：「あー、旅行に行ったよ！」

「昔は2、3年に1度は1泊旅行に行っていたんだ。サンフ  
ラワーと言う大型フェリーが就航（1972年）した際、四国  
へ行ったのが一番の思い出かな。いい旅行だった・・・（笑）」

林：「この仕事は夜中や豪雨の中での作業となりますから大変  
ですよ。お互いに助け合い、連帯感と言う話はとても大切  
なことですね」

安田：「この排水機場は操作時間も長いし回数も多いから大変。  
長い時は30～40時間も連続勤務した経験もあったなあー。  
洪水時は揖斐川本川の水が、中々、引かないからねえ。」

林：「徳山ダムが出来た、平成20年以降はどうでしたか？」

安田：「徳山ダムが出来た以降は、揖斐川本川の水が上がらなくな  
り、操作自体は楽になった」

奥田：「ここに務める何人かの操作人に聞くと、徳山ダムの効果  
はもの凄く大きいと言っている。揖斐川本川の水位を低下さ  
せているので、水門川を含めて、支川の排水が確実にスムー  
ズになっていると思うよ」



出典：Wikipedia



出典：徳山ダム管理所HP

## ③ 思い出に残っている洪水とか操作経験は？

細野：「20年間で一番思い出に残っている洪水とか水門操作はありますか？」

安田：「昔、もの凄く水が出た時、地元からは`もっと排水量を増やして!`と相談を受け、新水門川排水  
機場（国管理）と併設する水門川排水機場（県管理）の両機場でフル稼働させ、何とか乗り切った記憶  
はある。昔は、今のように市内の水路網も整備されておらず、あちらこちらで内水被害が発生していた  
から、我々、操作人たちも必死の操作だったよ！（笑）」

## ④ 昔は今と比べて作業は大変だったか？

種田 : 「昔は今と比べて、作業は大変でしたか？」

安田 : 「徳山ダムが出来る以前は、揖斐川本川の水が、中々、引かないため、新水門川排水機場の内外水位の変化にとても神経を使った。一番困ったことは、堤防の草刈り後の草が流れ着き、除塵機を詰まらせ起動を止まらせてしまうこと。昔であれば、操作人が総動員で草を取り除くなど、協力体制が取れたが、今はそういう連帯感が小さくなったから、緊急時はとても作業が大変だった」

林 : 「たしか、去年も9月の豪雨時に草がいっぱい流れてきて、あわやという事がありましたね」

「あの時は、揖斐川第二出張所の維持業者が急行し、草を撤去するお手伝いさせてもらいました」

安田 : 「排水ポンプをどんどん回しても除塵機に草が詰まり、排水ポンプが起動できなければ元も子もない

林 : 「除塵機から草を引き上げる作業が一番えらいですからねえー。雨が降っている最中の作業は大変です。国としてもバックアップ体制を取っていききたいし、今後も管理人や操作人の方々と連携して対応していきたいと考えています」

安田 : 「今の体制では、中々、難しいですよ。特に徳山ダムが出来た以降は、新水門川排水機場（国管理）だけの排水操作で終わることが多く、併設する水門川排水機場（県管理）の排水ポンプを起動させる頻度は極端に減ってきているため、いざと言う時に確実な操作が出来ないのでと、常々、心配しているんだ。」

林 : 「2つの排水機場は、大垣市の生命線ですから・・・」

安田 : 「皆、操作人の人たちは、そういう自負があり頑張っている」



排水機場に流れ着いた草を取り除く  
操作員の方々（平成25年9月撮影）

## ⑤ 今後の排水機場の操作体制のあり方や提案など

種田 : 「最後になりますが、今後の排水機場の操作体制や、後継者の方々への思いなどがありましたらお願いいたします」

安田 : 「時代の流れだから仕方がない部分もあるが、もう少し関係者の連帯感が生まれるような仕組み作りをお願いしたい。役所には、数年に1度くらいは、研修会の名目で管理人や操作人の話や要望を聞く機会を作って貰いたい。また、懇親会や慰安旅行などを行うのも良い。こう言ったことが、我々にとっても連帯感が生まれるし、仕事への励みにもなるからね（笑）」

細野 : 「連帯感。そういうコミュニケーションは大切に、防災全般に共通する課題ですね。別の例えで言えば、昔は各地区ごとに子供会という組織が存在し、それぞれの地域の中で地域コミュニティが成立していたが、今はそういう繋がりは希薄してきた。時代に逆らうことは出来ないが、工夫して改善出来ることは見直していきたいですね。安田さんは、これで第一線から退かれるが、近い所に住んでおられるので、今後も、何かお気付きやアドバイスがあれば、遠慮なく連絡して貰いたい。本当に長い間、ご苦労様でした。そして有り難うございました。」

安田 : 「この様な機会を作っただけ、本当に感謝する」

